

# 平成29年度事業報告書

川崎市視覚障害者情報文化センター

## 1. 総括

川崎市視覚障害者情報文化センターの事業方針は、視覚障害者市民にいつも「必要とされるセンター」を目指しています。センターに来ることができる人はもちろんですが、センターに直接来ることが出来ない人たちにも、積極的にサービスを展開します。講座、イベント、コンサートなど幅広く文化活動を展開し、利用者交流の場を提供いたします。また、ボランティアの育成に力を注ぐとともに、連携の強化を図ります。そして、視覚障害者が一市民として心豊かな毎日を過ごせるよう、日常生活のQOLを高める知識と自立支援訓練を提供します。

4年目にあたる平成29年度も、上記方針に沿って事業を進めてまいりました。特に本年は、地域に根ざし、より幅広く情報を発信するとともに、各方面との連携の強化に努めてきました。利用者の皆さんとの信頼関係もでき、またそれに応えるべく職員相互の情報交換、連携も密に行いました。そのような結果、図書の利用登録者も約5%増え、それに伴い貸し出し数も順調に伸びました。また、ボランティアの養成講座も例年通り開催し、点字図書、録音図書も目標通り製作することができました。また、訓練については、「相談」という課題解決のための短期的なサポート（2回～5回程度）への要望が増え、それに応えてきました。視覚障害者の生活を便利にする用具（グッズ）も、昨年同様の斡旋を行いました。ゆったりとした空間の中で椅子に座り、相談しながら必要な商品をテーブルに置いて触ることができるので、好評をいただいています。これらの商品を使って、少しずつできる事を増やし、本人の気持ちが前向きになって、訓練につながったり、図書の利用につながるという導入の効果もありました。

情報文化センターですので、文化の発信も行いました。音楽コンサート、DVD映画の音声ガイド付き体験上映会、国立国会図書館が配信している歴史的音源を聞く「れきおんクラブ」「アイ eye センターまつり」「視覚障害者のための防災イベント」「ヨガ体験会」などを開催しました。これらは、視覚障害者同士の交流の場にもなっています。また、市民に視覚障害者のことを理解してもらうために、小中学校や公民館などに出向き、視覚障害について講演を行い、白杖歩行体験会、点字体験も行いました。

また、平成29年度は第26回視覚障害リハビリテーション研究発表大会を主管施設として運営を行い、成功裏に終えることができました。

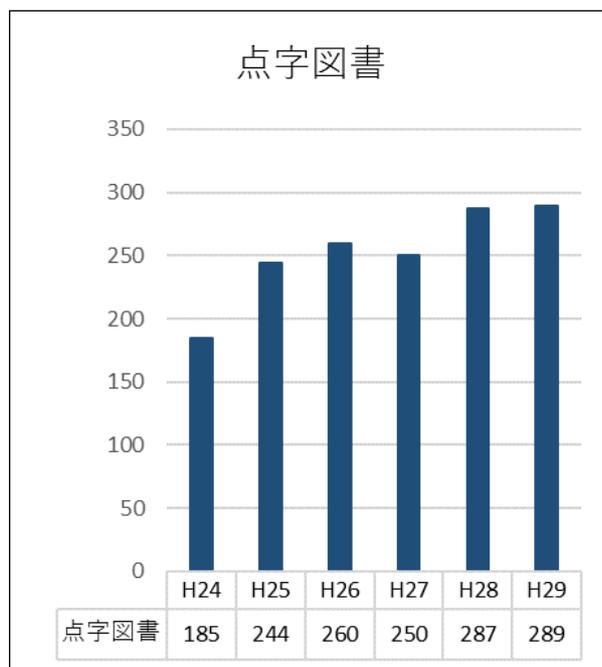
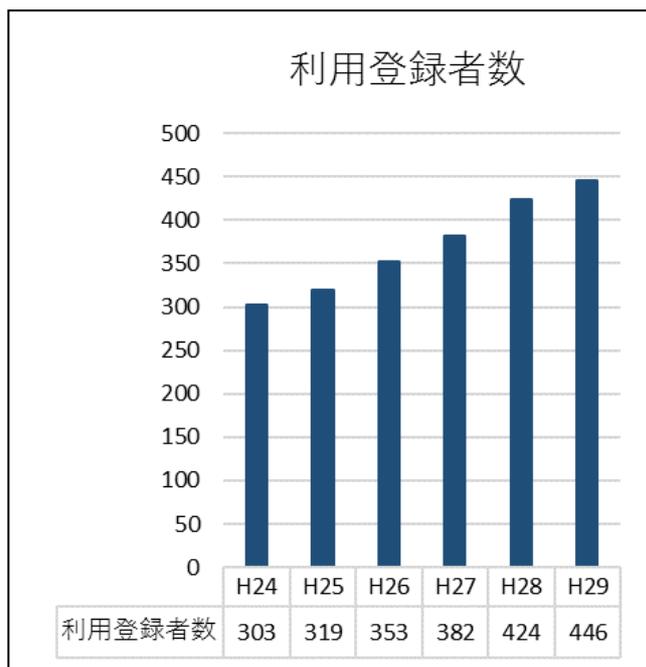
## 2. 事業の成果

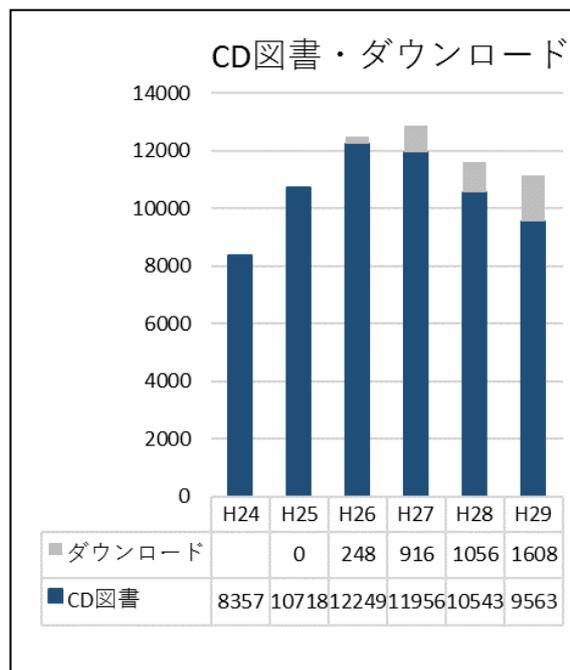
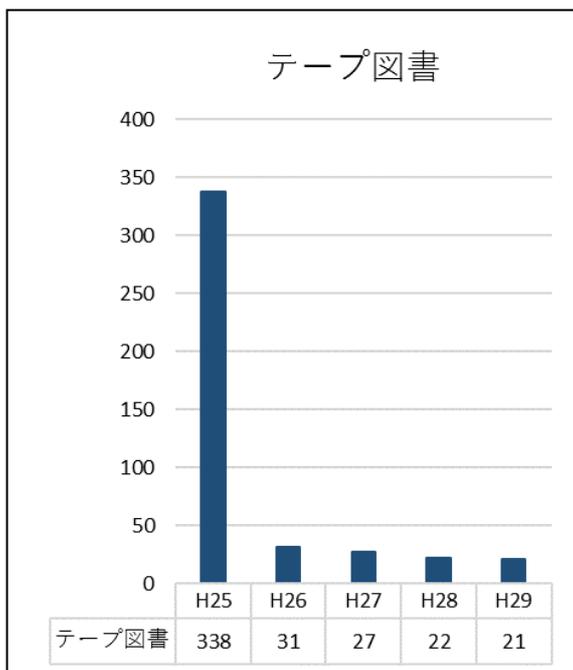
### ① 点字図書館事業（図書の貸し出し/製作/ボランティアの養成）

#### （ア）図書の貸し出し

利用登録者、点字図書、テープ図書、CD図書の貸し出し状況は、以下のグラフに示します。利用登録者数は446名となり、川崎市盲人図書館時代（平成25年度）の

約 1.4 倍になっています。貸し出し数は、点字図書が 289 タイトルと平成 28 年とほぼ同数、録音図書は、CD 図書が 9,563 タイトルと平成 28 年に比べ若干減少しています。CD 図書を多く聴かれる熱心な利用者が亡くなられたこともあり、CD での貸し出し数の減少にはなりましたが、一方で、SD カード・CF カードを使って貸し出す方式<sup>注1</sup>は、録音図書が 1,608 タイトル（平成 28 年は 1,056 タイトル）と前年比の 1.5 倍に伸びています。一度に 10 タイトルを一回のカードのやりとりで聴くことができる便利さから、利用者が増えていると思われます。また、サピエ図書館に直接アクセスして当センター制作図書をダウンロードして利用する件数も伸びており、点字図書 1,742 タイトルで前年比 1.2 倍、録音図書が 934 タイトルで 1.1 倍となっています。これらのことから、利用者の利用方法が変化していることがわかります。平成 30 年 6 月からサピエ図書館に直接アクセスできる新型の機器（プレクストーク PTR3）が発売されるので、これからサピエ図書館の直接利用が益々増えることが予想されます。





注1) 当センターでは貸し出し方法のひとつとして、ダウンロードサービスを行っています。これは、パソコンの使用が困難な利用者のために、利用者に代わってサピエ図書館から希望の図書をメモリーカードにダウンロードするサービスです。利用者個人のメモリーカード（SDカード・CFカード）を使用するので貸し出し期間の制限もなく、人気の図書の予約待ちもありません。これによって、サピエ図書館のすべての資料をご利用いただけます。

#### (イ) 点字図書・録音図書・音声ガイドの製作

点字図書は目標通りの40タイトルを製作いたしました。また、個人の希望図書を製作するプライベートサービスは、25タイトル製作しました。

録音図書は104タイトルを製作し、目標（100タイトル）を上回ることができました。またプライベート製作は8タイトル製作し、テキストデージーという新たな方式の図書も7タイトル（平成28年6タイトル）製作しました。

シネマ・デージー（映画本編のサウンドトラックに、場面を説明する音声解説を付けデージー図書にしたもの）は、センターで養成したボランティアにより6タイトル製作することができました。委託製作とあわせて22タイトルを製作しました。

#### (ウ) 点訳ボランティア、音訳ボランティア、音声ガイドボランティアの養成

本年度は、点訳者養成講座を7名の方に全16回にわたり開催し、受講生7名全員に修了証をお渡しすることができました。今後点訳者として蔵書の製作をしていただきます。また、ボランティアのレベルを向上させるスキルアップ研修会を、点訳者向

け、音訳者向けに、それぞれ開催しました。点訳者には2回開催し、50名の方に受講していただきました。音訳者には、今年度は朗読した音源を元に、校正者が校正箇所を具体的に説明する方法で実施し、14名に対し各人1回、全14回開催し全体のスキルアップを図りました。また、映画の音声解説を製作するボランティアの養成講座を8回開催し9名の方が修了し、音声ガイドの製作を行っていただいています。

#### 外部委員による選書に関する検討会の開催

昨年7月の運営委員会において、「川崎情文センターならではの、特色のある本を作ってほしい」というご意見をいただきました。とても難しい課題ですが、今後の選書方針に新たな視点を加える良い機会です。そこで利用者、点訳者、音訳者、視障協の方々6名の方にご参加いただき、選書に関する検討会（10/31）を開催しました。

そこで委員の皆様から沢山の貴重なご意見をいただきました。ある一つの方向性というよりも、川崎の利用者に興味を持ってもらうための、いろいろな視点をいただきました。今後、毎月行われる選書会議の中で、ご指摘いただいた視点を反映できるように取り組んでまいります。

## ② 相談・訓練事業の取り組み

### (ア) 相談・訓練実績

歩行訓練は、訓練全体の5割を占めています。具体的には、公園、コンビニ、病院など、自分ひとりでいける所を増やす訓練を行っています。パソコン訓練は、音声読上げ機能を使ってキーボードのキータッチを覚えることから始め、ワード、エクセルというビジネスソフトの操作を指導したり、視覚障害者専用ソフトを使って、メールやインターネットを楽しむことができるように指導しました。また、全体として相談（短期的なサポート）の割合が昨年に比べ増えています。進学、就職により通勤経路のみの歩行訓練、人事異動に伴い勤務先が変更になったことによる歩行訓練、就職、引っ越しなどによる生活相談、スマートフォン、iPadの操作方法、音声図書読書機の操作方法などがあります。また、センターで購入された時計や音声図書再生機（デージー再生機）などの機器の操作指導、高齢の方の誘導や体力維持のための運動方法や利用施設の紹介、また、就労継続、通学などのアドバイス、機器が故障してしまった場合の代替機の設置や、パソコントラブルの対応の訪問など、それぞれの生活の中で必要な支援も含めて行っています。

訓練については昨年より実績が少なくなっていますが（平成28年度75名、600回）、昨年おこなっていた利用者が訓練を終えたことや、高齢の方が多いので体調不良で中止になることもその要因の一つと思われます。今年度、病院から数件のご紹介をいただい

ていますが、まだまだ医療機関のもとに不便さを抱えながら生活を送っている人が多数いると予測されます。今後医療機関との連携を進め、早期に相談・訓練ができるように、連携を強化していきたいと思います。

<訓練>

	回数	人数
歩行	310	20
PC	119	11
点字	144	6
日常生活	11	5
調理	9	1
その他	7	5
計	600	48

<相談>

	回数	人数
歩行	100	43
PC	66	22
点字	2	3
日常生活	41	29
その他	50	35
計	261	132

(イ) 利用者同士の懇親会（ぶらぶら会）の開催

従来から実施してきた「ぶらぶら会」を平成29年度は7回企画しましたが、利用者の体調不良などにより人が集まらず2回のみで開催となりました。7/15にカラオケ大会、3/2はアロマワックスバーを開催しました。カラオケ大会（参加者5名）では、それぞれの持ち歌を披露。熱唱される姿に、普段見られない一面を垣間見ることができました。



またアロマワックスバーというアロマキャンドルを製作するワークショップでは、アロマの香りの漂う中、和やかに談笑しながら製作してもらいました(参加者9名)。

(ウ) 訓練生屋外交流会の開催

職員とマンツーマンで訓練している訓練生が、同じ障害を持つ訓練生と交流・親睦を深め、今後の社会参加を促すことを目的として訓練生屋外交流会を開催しています。今回は10月26日（木）さいたま市にある鉄道博物館に川崎市の福祉バスを利用して出かけました。参加者は36名、バスの中で自己紹



介、鉄道に関する思い出、そして鉄道博物館のお目当てを話してもらったところ、意外に鉄道ファンが多いことが判明。みなさん、このイベントを楽しみにしていたようでした。到着後すぐに記念撮影。その後は、4班に分かれて博物館内を見てまわりました。昭和時代の電車に乗りそのシートの手触り、つり革の感触、車内の匂いなどで当時を懐かしく感じている方、D51などの蒸気機関車の運転席では多数の操作レバーを触り、蒸気をエネルギーとして動かすしくみに思いを馳せる方、初代新幹線に乗り当時のことを語りあう方など、昔に戻ったように楽しんでいただきました。そして、ミュージアムショップでは、鉄道博物館ならではの土産を買われ、満足された様子で帰路に着かれました。

## (エ) 第26回視覚障害リハビリテーション研究発表大会 in 川崎・鶴見の開催

(6月9日～11日)

この大会は、視覚障害者(児)に対する、福祉・教育・職業・医療等の分野におけるリハビリテーションに関心をもつ人たちが集まり、相互の学術的な交流を図る年に一度の大きなイベントです。今回の大会は、当センターが運営主管施設として手を挙げ、1年にわたり準備を進めてきました。会場は鶴見大学をお借りし、川崎の大会らしい試みをいくつか行いました。発表内容では、川崎周辺で活動している団体やグループを紹介する地域活動報告コーナーを設けました。これについては、大会後に多くの方から「地域の視覚障害者の状況を理解できてよかった。」という声をいただきました。また、毎年印刷している130ページもの抄録集を今回は電子版のみにして、ホームページからダウンロードして利用する方式にしました。PDF版、ワード版に加え、視覚障害者向けにテキストデータ版、テキストDAISY版、UDブラウザ版というアクセシブルなメディアを追加しました。また、交流会(懇親会)は参加費を無料として、大学の学生食堂で開催しました。その結果、これまでにないほど大勢の方に参加していただき、講演者、発表者、参加者が熱心に交流する機会を提供することができました。

この研究発表大会は年々規模も大きくなり、複数施設で運営する実行委員会形式にすることが多くなっています。今回の大会は、川崎市視覚障害者情報文化センターという一施設のみが主管施設で運営した大会で、会場も大学の講堂、教室を使った手作り感のある大会でした。

リハビリテーションの知見を得るだけでなく、リハビリテーションに関わる方々を互いに結び付ける、良い大会にすることができました。



### ③ 視覚障害者用具の展示と斡旋

視覚障害者の日常生活を便利にするグッズを平成 29 年度は、1,291 点（平成 28 年度 1,233 点）の斡旋を行いました。これらのグッズによって不便さを自ら解決できるようになり、視覚障害者の気持ちが積極的になって訓練や図書利用に進むきっかけになるケースが多くあります。センターでは、白杖を購入される方に歩行訓練をしたり、音声時計や録音図書再生機を購入される方に操作方法を説明したりするので、用具の紹介や斡旋を通して、当事者の QOL 向上につながっていきます。視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの歩行訓練士がスタッフとして対応出来ることが大きな強みになっています。



### ④ ボランティアの育成と連携

川崎市視覚障害者情報文化センターを活動拠点としているボランティア団体、水車の会、デジ川崎、川崎パソコンユーザー会の活動日（毎週火曜日）に、当センターの多目的室、および録音室を使用いただいています。また、年に一度の施設公開日である「アイ eye センターまつり」では川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（オブリガード）と共催し、まつりの運営を共同で行いました。特に今年度はセンター、オブリガード、川崎市視覚障害者福祉協会の 3 者による実行委員会を立ち上げ、打合せを重ねた上でアイ eye センターまつりの運営を行いました。

### ⑤ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体への協力と啓蒙・普及

#### （ア） 地域の自治体、各種支援センター、各種団体への協力

（用具の機器展示及び相談会の開催）

- 4/23 アイフェスタ in 横浜 2017 神奈川県ライトセンター
- 5/10 平塚盲学校 弱視レンズ・拡大読書器・日常生活用具展示会
- 6/17 神奈川県ライトセンター 「音楽祭」
- 10/8 バリアフリーフェスタかながわ 2017 慶應義塾大学日吉キャンパス
- 10/28 平塚盲学校文化祭
- 2018/2/25 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会主催

「平成 29 年第一回かなエール」

## (イ) 啓蒙・普及

市内の小中学校、公民館において、道や駅で困っている視覚障害者に声をかけ、簡単な手引きができるように白杖歩行体験、誘導の仕方を指導しました。また、民生委員、社会福祉協議会婦人部の方々に視覚障害についての講演をしたり、県内の盲学校での音声解説付きDVD映画体験上映会などを行いました。

- 6/13、7/4、9/26（全3回）川崎市立宮内中学校（各回約25名）
- 6/16 日々輝学園高校（約20名）
- 6/21 川崎市立川崎小学校（約120名）
- 7/22 高津市民館平和人権講座（約50名）
- 8/2 チャレンジボランティア体験学習会（小学生と保護者5組）
- 8/30 平塚盲学校 音声解説付きDVD映画体験上映会の開催（16名）
- 9/7 川崎市立川崎小学校 視覚障害者施設の見学（22名）
- 10/20 川崎市立大師中学校体育館（全学年生徒と職員）
- 11/8 川崎市民生委員との懇談会（10名）
- 2018/2/7 日吉第一民生委員との懇談会（5名）
- 2018/3/13 川崎区中央第一地区社協婦人部との懇談会（35名）

## ⑥ 広報活動とイベントの開催

### (ア) センター事業の広報

#### I. 出前センター

遠方のためセンターにあまり足を運ぶ機会の少ない川崎市の北部地域の視覚障害者のために、3月16日（金）に多摩区役所アトリウム（ロビー）で出前センターと称して点字図書・録音図書、用具、音声パソコン・iPad、音声解説付

きDVD映画などの体験会、相談を行いました。25名（内視覚障害者13名）ほどの来場があり、各コーナーをゆっくりと見て回る視覚障害者の方、たまたま見て立ち寄った視覚障害者や一般の方など、午後2時ごろまでは、常に人がいるような状況でした。地元の視覚障害者にゆっくりと見てもらうことができ、地域の方にセンターを紹介する必要性を感じました。来年度からは単独で行う出前センターをやめ、麻生区、多摩区、宮前区の福祉まつりに出展する予定です。

多摩区役所アトリウムでの出前センターの様子



## II. 訓練事業説明会

目が見えにくくなって生活上の不便さを感じている方々がもっとセンターに繋がってもらえるように、毎年1回、主に行政の障害者担当や障害者施設の方々に対して当センターの訓練事業説明会を行っています。平成29年7月14日(金)に開催し、役所の障害者担当、民間の障害者支援施設職員、点字図書館の職員など10名の方に参加していただきました。当日は平成28年度の訓練実績、図書の利用状況、当センターで行っている訓練の内容とその必要性、視覚障害者用の用具類(補装具、日常生活用具)について説明しました。特に用具類については、役所の窓口業務を行う方がどのような商品かをイメージしてもらえるように、日常生活用具のそれぞれの分類毎に(自立支援用具、情報・意思疎通支援用具)、その機能をわかりやすく説明し、操作体験もしてもらいました。

## III. アイ eye センターまつり

2月17日(土)に今回で4回目を迎える「アイ eye センターまつり」を開催しました。「市政だより」「アートニュース」など様々な方法で広報した成果もあり280名もの方にご来場いただきました。このイベントは一般健常者の方に視覚障害を理解してもらおうと共にボランティアに興味を持っていただき、当事者の方にはセンターのことをより身近に感じていただくためのイベントです。点字体験、盲導犬体験、パソコン体験、iPad体験、音声解説付きDVD映画の体験、最新の視覚障害機器の体験や、川崎市の視覚障害関係のボランティアグループの活動紹介コーナーを設置しました。2階ホールでは、午前中が音訳ボランティアによる「朗読ミニライブ」、午後からはセンター主催による「オルゴールと蓄音機のコンサート」を開催しました。コンサートには約180名の方が入場されほぼ満席。手回しオルゴールの音色、蓄音機の柔らかい、懐かしい音色をみなさんに堪能していただきました。

今回の「アイ eye センターまつり」は、当センター、川崎市視覚障害者ボランティア連絡会、川崎市視覚障害者福祉協会の3者で実行委員会をつくり、3回の委員会を開催し準備を行うことができました。その結果当日の来場者に対して、とても満足度の高い対応をすることができました。

## <オルゴールと蓄音機のコンサート>



### (イ) イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。センターでは文化発信ためのイベントを多数開催しました。

#### I. 音声解説付きDVD映画体験上映会【毎月開催】

DVD映画を再生しながら、登場人物の動きや背景等をセリフとセリフの合間に説明するガイド音声と同時に流し、晴眼者も視覚障害者も一緒に楽しめる上映会を毎月開催しています。上映会は、作品によって来場者の多い少ないはありますが、平成29年度は合計439名、平均37名/回の方に来ていただきました。



当センターで音声ガイドを製作した作品は、当日製作したボランティアの方にも一緒に鑑賞していただくようにしています。映画の終わりに来場者からボランティアの方へ、感謝の意を込めた拍手が贈られるとき、製作側と鑑賞する側が一体となった温かい雰囲気になります。それも、この映画会の魅力の一つです。アンケートの回答でも、88%の方に「よかった」（年間平均値）と回答していただき、皆さんにご満足いただいています。センターの運営委員会でも、「映画会は今後も続けてほしい。」という意見をいただいています。

※ 外部からの上映依頼もあり、平塚盲学校（8月30日）、視覚障害者福祉協会麻生支部（11月18日：北部リハビリテーションセンター）にて上映会を行いました。

## II. 歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ）【隔月開催】

「れきおんクラブ」は、国立国会図書館が保存する SP 盤レコードのデジタル音源をインターネットを介して聴くイベントです。

5月は、「栄光の活動弁士物語」、7月は「古関裕而 栄冠は君に」、9月は「裕次郎の青春」、11月は「日本オーケストラの夜明け 新交響楽団物語」、1月は「宮城道雄の世界 伝統と挑戦」、3月は特別企画として「手回しオルゴール体験会」を開催しました。

手回しオルゴール体験会の様子



## III. ヨガ体験会【5回開催】

視覚障害者の多くはエクササイズを行う機会があまり無いのが現状です。ヨガは、室内でできる安全なエクササイズですので、とてもニーズのあるプログラムと考え、平成29年度から開催いたしました。センターのヨガ体験会は、視覚障害者ご本人だけでなく、同行者も一緒に参加することができるようにしていますので、親子やご夫婦でのご参加もあり、和気藹々と大変和やかで楽しい体験会になっています。

参加者から「是非、毎月開催してほしい。」との要望がありましたので、平成30年度は2月、8月を除き、ほぼ毎月開催することにしました。



#### IV. 読書会（2回開催）

読書会は一つの作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。年2回、春と秋の時期に行われ、盲人図書館時代から続く歴史ある行事となっています。

6/23 春の読書会

作品 「花はさくら木」 辻原登著（参加者 13名）

12/15 秋の読書会

作品 「豆の上で眠る」 湊かなえ著（参加者 6名）

#### V. かわさき春と冬のコンサート

当センターでは、文化活動の一環として春と冬の年2回、コンサートを開催しています。5月13日（土）には「かわさき春のコンサート」、12月2日（土）には「かわさき冬のコンサート」を行いました。春のコンサートは横浜市立盲特別支援学校の教諭、高橋透さん（33歳）のアコースティックギターの弾き語りコンサートでした。23歳で失明されてからも、音楽に情熱を注いでこられた方で、ご自身の体験を語りながら、サザンオールスターズやチューリップの名曲を熱唱しました。（会場：センター多目的室/入場者 25名）

「冬のコンサート」は「すずさんと楽しい仲間たち」による音楽劇「春夏秋冬」でした。山崎すずたろうさんは、テレビのCMにも出演している俳優さんで、舞台、朗読劇等でも活躍しています。今回は、歌あり、朗読あり、笑いありの楽しい舞台をみなさんと楽しみました。（入場者 60名）

#### VI. 防災イベント

1月20日（土）に視覚障害者に防災の情報を提供し、日頃から防災に関心を持ってもらうために、視覚障害者と支援者のための防災イベントを開催しました。当日は、TBSの伊藤隆佑アナウンサーによる「災害報道最前線から学ぶ、今すぐ役立つ防災知識」と題して、マスコミ側の災害情報発信の現状を講演していただきました。テレビとラジオというメディアの特徴と、災害情報の流し方の違いを説明していただき、うまく使い分けて災害情報を入手することの大切さなど、とても有益なお話をしていただきました。また、当日は、避難所に設置される災害用トイレ、起震車、AEDを体験できるようにし、視覚障害者向けの防災グッズも販売しました。川崎市危機管理室が製作した「川崎市に地震が起きた日」「災害時要援護者避難支援制度のご案内」を配布するなど、来場者に防災を見直す機会を提供できたと感じています。（来場者数 32名）

VII. アロマ体験会（参加者：16名）

9月16日（土）に開催しました。講師の<sup>しんめいまり</sup>新明愛梨さんよりアロマセラピーについての説明があり、3回分のバスソルトを作りました。あらかじめ精油を入れた岩塩を5種類（ラベンダー・オレンジ・ペパーミント・ベルガモット・ゼラニウム）×3セット用意し、好みに合わせてスプーンですくって瓶に入れ、ふたを閉めて瓶を振り、攪拌して香りを確認し、必要なら岩塩を追加することを繰り返し、アロマの好みの香りを楽しみながら、一人一人好みのバスソルトを完成していただきました。

VIII. 日本とキルギス友好チャリティーコンサート

10月15日（日）にキヤル基金主催の、日本とキルギス友好チャリティーコンサートが開催されました。2016年に日本テレビの『のどじまん THE ワールド!2016 春』で優勝されたキルギス共和国のグルム・カシムバエヴァさんによるコンサートで、センターは昨年度に続き共催として会場の手配、広報と当日の運営のお手伝いをさせていただきました。当日は約130名もの方が来場され、グルムさんの澄んだ声に魅了された感動のコンサートでした。

IX. 朗読と馬頭琴のミニコンサート

馬頭琴は草原のチェロとも呼ばれるモンゴルの伝統楽器です。モンゴルの民話『スーホの白い馬』の朗読と、それに合わせて馬頭琴を演奏するミニコンサートを平成30年1月26日に開催しました。モンゴル出身の馬頭琴奏者セーンジャー氏は、これまで様々なジャンルの演奏家とのコラボレーションを行ってきたプロの演奏家です。物語に出てくるモンゴルの大自然と、そこに住む人々が思い浮かぶような迫力ある演奏を皆様に楽しんでいただきました。（参加者約30名）



### 3. 利用状況

(1) 閲覧・貸出	平成 29 年度	平成 28 年度
① 利用登録者数	446 名	424 名
(新規登録者数)	22 名	42 名
(点字使用者数)	123 名	117 名
② 利用登録団体	275 施設	264 施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	2,933 タイトル	2,737 タイトル
(冊数)	10,814 冊	10,086 冊
蔵書数の変化 (新収書)	130 タイトル	136 タイトル
	368 冊	415 冊
貸出数	289 タイトル	287 タイトル
	976 冊	981 冊
(内 他館借受)	59 タイトル	40 タイトル
	179 冊	116 冊
(雑誌)	288 タイトル	324 タイトル
④ 録音図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	5,619 タイトル	4,983 タイトル
(枚数)	5,623 枚	5,013 枚
蔵書数の変化 (新収書)	278 タイトル	181 タイトル
	283 枚	181 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	21 タイトル	22 タイトル
	95 巻	111 巻
(イ) CD図書	9,563 タイトル	10,543 タイトル
(内 他館借受)	5,929 タイトル	6,973 タイトル
(ウ) カセットテープ雑誌	42 タイトル	60 タイトル
(エ) CD雑誌	4,506 タイトル	4,799 タイトル
デジタル図書コンテンツダウンロード提供		
(ア) SDカード	1,003 タイトル	757 タイトル
(イ) CFカード	600 タイトル	299 タイトル
(ウ) CD	5 タイトル	0 タイトル

	平成 29 年度	平成 28 年度
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	80 件	75 件
(2) 資料製作		
① 点字図書製作数 (ボランティア数)		
(ア) 委託製作数	17 タイトル 79 冊	17 タイトル 73 冊
(イ) 委託外製作数	23 タイトル 79 冊	29 タイトル 116 冊
(ウ) 寄贈	21 タイトル 42 冊	30 タイトル 80 冊
(エ) プライベートサービス	25 タイトル	21 タイトル
② 録音図書製作数 (ボランティア数)		
(ア) 委託製作数	音訳 86 タイトル デイジー編集 104 タイトル	61 タイトル 97 タイトル
(イ) 委託外製作数	18 タイトル	36 タイトル
(ウ) 寄贈	32 タイトル	17 タイトル
(エ) プライベートサービス	8 タイトル	9 タイトル
③ テキストデイジー図書の製作数	7 タイトル	6 タイトル
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数		
(ア) 委託製作数	16 タイトル	15 タイトル
(イ) センター内製作数	6 タイトル	3 タイトル
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成		
① 点訳ボランティアスキルアップ研修会		
開催回数	2 回	2 回
受講者数	50 名	80 名
② 音訳ボランティアスキルアップ研修会		
開催回数	14 回	4 回
受講者数	14 名	10 名
③ 音訳ボランティア養成講座 (未実施)		

	平成 29 年度	平成 28 年度	
開催回数	- 回	16 回	
延べ受講者数	- 名	101 名	
実受講者数	- 名	7 名	
④ 点訳ボランティア養成講座		(未実施)	
開催回数	16 回	- 名	
延べ受講者数	100 名	- 名	
実受講者数	7 名	- 名	
⑤ 音声ガイド養成講座			
開催回数	8 回	-	
延べ受講者数	72 名	-	
実受講者数	9 名	-	
(4) 訓練事業の取り組み			
① 訓練	訓練者実数	48 名	75 名
	(新規訓練者数)	19 名	20 名
内訳 (複数提供あり、契約を結ばない短期訓練も含む)			
	歩行訓練	20 名	41 名
	パソコン訓練	11 名	14 名
	点字訓練	6 名	9 名
	生活訓練(日常・調理)	6 名	11 名
	その他	5 名	0 名
② 相談		132 名	150 名
③ 用具の展示と販売紹介	展示点数	323 点	360 点
	販売紹介点数	1,291 点	1,233 点
(5) 啓発普及			
① 事業報告会等の開催			
7 月	視覚障害者訓練事業説明会	参加者数	10 名

2月	多摩区役所アトリウム(出前センター)	参加者数	25名
② 授業・講座への講師派遣			
6月	宮内中学校		
	「視覚障害者の生活について」(全3回)	延べ参加者数	75名
	日々輝学園高校「障害者理解」	参加者数	20名
	川崎小学校「視覚障害者の日常生活について」	参加者数	120名
7月	高津市民館 平和人権講座		
	「障がい者の気持ちになってみると・・・」	参加者数	50名
8月	福祉パル中原 チャレンジボランティア体験	参加者数	10名
	平塚盲学校		
	音声ガイド付きDVD映画体験会	参加者数	16名
10月	大師中学校「視覚障害者の日常生活と 盲導犬の果たす役割」	参加者数	約600名
③ 訓練生交流会			
	開催数2回	参加者数	14名
④ イベントの開催			
5月	「かわさき春のコンサート」	来場者数	25名
6月	読書会「花はさくら木」	来場者数	13名
9月	日本キルギス友好チャリティーコンサート	来場者数	130名
	アロマ体験会	来場者数	16名
10月	訓練生屋外交流会(鉄道博物館)	来場者数	36名
12月	読書会「豆の上で眠る」	来場者数	6名
	「かわさき冬のコンサート」	来場者数	60名
1月	視覚障害者と支援者のための防災イベント	来場者数	32名
	朗読と馬頭琴のミニコンサート	来場者数	30名
2月	アイ eye センターまつり	来場者数	280名
	音声ガイド付きDVD映画体験上映会		
	開催数 12回	延べ来場者数	439名
	歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」		
	開催数 6回	延べ来場者数	50名
	ヨガ体験会	開催数 5回	延べ来場者数 104名